－所蔵作品紹介－

彦坂　尚嘉　HIKOSAKA Naoyoshi

PWP44インディアン・サマー

PWP44いんでぃあん・さまー

作品データはこちら

ＰＷＰとはPractice by Wood Paintingの略である。「板絵による実施」とでも訳されようか、作者は1970年代後半より始めた一連の作品に総じてつけられた名称である。太く巾の狭い杉板を接ぎ合わせて、果物ナイフの先端のような形体や立方体ともいえる矩形の板がつながり合い存在感のある支持体をなしている。その上にアクリル絵具で植物的なモチーフや赤犬などが幾分抽象化されて描かれる。

インディアン・サマーとはアメリカ北西部やカナダの晩秋にみられる小春日和のこと。転じて人生の晩年に訪れる落ち着いた楽しい一時期のことも指す。1985年に当館で開催された「絵画と彫刻のあいだ展」に出品された「ＰＷＰ43エスキモー」と対をなすかのようなこの作品には、北米の少数民族が背負った物悲しさがつきまとう。

作者、彦坂尚嘉は1946年東京に生まれ、多摩美術大学を中退後、第一次美共闘リヴォリューション委員会に参加して現在美術に関する論陣を張る。とりわけ1970年前後に日本の美術界に流行した「もの派」に対する批判の急先鋒となり「反復―新興芸術の位相」（田畑書店1974年）などの書物を表した。平行して作家活動を続け、木を素材としたレリーフ作品で毎年のように個展を開催している。

色彩によって表面が覆われている点では絵画的要素が強い。だが堅固で存在感のある支持体が手前にせり出しており、板の節目をふくめた微妙な凹凸が見る者の皮膚感覚を刺激する。「精神主義的表現主義」と評されたことのあるこの作家の作品は、見る者に厳粛な感動を与える。

旭川美術館だより「氷華」No.18（1988.８発行）「収蔵作品から」より